

# 石油技術協会誌投稿規定

平成 19 年 08 月 28 日 施行  
平成 21 年 12 月 15 日 一部改定  
平成 23 年 12 月 14 日 一部改定  
平成 24 年 12 月 18 日 一部改定  
平成 27 年 12 月 09 日 一部改定  
平成 29 年 12 月 13 日 一部改訂  
令和 02 年 09 月 01 日 一部改訂

## 1. 総 則

- 1.1 石油技術協会誌（以下、本協会誌という）への投稿は、本規定の定めるところによる。
- 1.2 本協会誌に投稿できる者は石油技術協会（以下、本協会という）の会員、もしくは入会手続き中の者とする。共著の場合は、共著者の一人は会員（入会手続き中の者を含む）でなければならない。ただし、依頼原稿はこの限りでない。
- 1.3 投稿された原稿の内容についての一切の責任は著者にある。

## 2. 原稿の投稿

- 2.1 本協会誌に投稿できる原稿は、石油・天然ガス鉱業、およびこれに関連する分野の学問・技術を内容とし、以下に記す種別ごとにそれぞれ次の要件を満たしたものである。

### 論 文 (Original Article)

新規性、もしくは創意工夫がある研究をまとめたもので、著者の意見が加味され、価値ある結論または事実を含むもの。

### 報 告 (Technical Report)

価値ある内容を含み、著者の意見が加味されたもの。既存の手法の実用性、もしくは要素技術の実証性を示したものも含む。

### 短 報 (Short Article)

新事実の報告、または速報的な短論文。

### 総 説 (Review)

特定テーマに関する論文、学説などを総括し、解説、紹介したもの。

### 資 料 (Note)

既存データを客観的にまとめたもの。議事録なども含まれる。

### 解 説 (Glossary, Explanation)

特定専門事項を紹介・説明したもの。

### 討 論 (Discussion)

本協会誌に掲載された内容に関する質疑応答。掲載後 1 年以内とする。

### 口 絵 (Pictorial)

カラー画像を中心とした解説・紹介が効果的なもの。

### 講 演 (Lecture)

本協会主催の講演会の内容。

### 新刊紹介 (Book Review)

新刊の学術単行本などを紹介したもの。

### 会員の声

石油・天然ガス鉱業に関連した会員の意見。

### 参加報告

関連学会への参加報告など。

- 2.2 原稿は以下の条件に適合するものでなければならない。

- 2.2.1 原稿は平明な日本語または英語で、石油技術協会誌投稿要領に基づき執筆されたものであること。

原稿の種別にかかわらず、本文は簡潔・明瞭で平素な表現を用いて、冗長にならないよう、かつ論理の飛躍や流れの省略がないようにすること。

- 2.2.2 一般に公表されている他の刊行物に未発表のものであること。

この「公表」とは、販売または配布をいい、「刊行物」とは、著者による特許を除く、言語や形態にかかわらずすべての出版物（電子出版、ウェブサイトを含む）とする。ただし、以下のものは未発表とみなす。

- (イ) 本協会が主催、または共催する講演会、集会において発行された予稿集、資料に掲載されたもの。
- (ロ) 著者の所属する機関において発行する刊行物に、速報的抄録を投稿したもの。

- 2.3 原稿掲載時の各種別の最大ページ数は、別表のとおりとする。

- 2.4 一連の成果を連続した「論文・報告」として投稿する場合は、各論文・報告には独立の表題を付けることとし、全体を統一する表題は副題とする。

- 2.5 原稿の受付日は、原稿が会誌編集委員会事務局に到着した日、または原稿が編集委員に託された日とする。

## 3. 査 読

- 3.1 投稿された原稿に対し、会誌編集委員会（以下、本委員会という）は石油技術協会誌編集委員会内規

に基づき、原稿の種別、要件に応じ査読を行う。

- 3.2 本委員会は査読の結果によって、種別の変更、内容・字句の加除、訂正、その他の修正の依頼を行うことがある。
- 3.3 査読者の意見を参考に、本委員会が本協会誌への掲載の可否を判定する。
- 3.4 掲載不可と判断された原稿は理由を付して著者に返送される。著者は判定に対し意見がある場合は、文書をもって本委員会に申し出ることができる。
- 3.5 本委員会からの内容の照会および修正を依頼された原稿について、本委員会からの依頼日より3か月以内に著者の回答、または返信がないときは、原則として、この原稿は撤回されたものとする。

#### 4. 著作権

- 4.1 本協会誌に掲載された著作物の著作権は最終原稿が受理された時点から本協会に属する。
- 4.2 著作権の取り扱い詳細に関しては、石油技術協会著作権規定に定める。
- 4.3 いずれの著作物も他の著作権を侵害するものであってはならない。
- 4.4 投稿された原稿の内容が第三者の了解を必要とする判断される場合、および引用の許諾等にかかわる必要な手続きはあらかじめ著者の責任において行い、図表を転載する場合は原則として投稿時に許諾の写しを添付する。ホームページ、ウェブサイトの引用についても同様とする。

#### 5. 校正と正誤表

- 5.1 原則として、著者校正は初校のみとする。版組の際に生じた誤り以外の字句の修正、挿入、削除および図表の修正は原則として認めない。なお、初校時には文法、および現代国語表記について著者の責任で確認するものとする。
- 5.2 著者が本協会誌に正誤表の掲載を希望する場合は、公表後1か月以内に本委員会に文書で申し出る。ただし、正誤表掲載の必要性は本委員会が判断する。

#### 6. 投稿に関する問合せ先

石油技術協会誌編集委員会事務局  
〒100-0004  
東京都千代田区大手町 1-3-2  
経団連会館 17 階（石油鉱業連盟内）  
Tel：03-3214-1701 Fax：03-3214-1703  
E-Mail：office@japt.org

#### 付 則

本規定は石油技術協会誌編集委員会運営規定第8条に従って定めるものである。

本規定の改廃は本委員会の発議により、理事会の議決によって行う。

本規定は令和2年9月1日より施行する（第85期第3回理事会承認）。

別 表 原稿の種別と最大ページ数の規定

種 別	要 件	最大ページ数 <sup>注)</sup>
論 文	新規性、もしくは創意工夫がある研究をまとめたもので、著者の意見が加味され、価値ある結論または事実を含むもの。	20
報 告	価値ある内容を含み、著者の意見が加味されたもの。既存の手法の実用性、もしくは要素技術の実証性を示したものも含む。	20
短 報	新事実の報告、または速報的な短論文。	10
総 説	特定テーマに関する論文、学説などを総括し、解説、紹介したもの。	20
資 料	既存データを客観的にまとめたもの。議事録なども含まれる。	20
解 説	特定専門事項を紹介・説明したもの。	20
討 論	本協会誌に掲載された内容に関する質疑応答。掲載後1年以内とする。	20
口 絵	カラー画像を中心とした解説・説明が効果的なもの。	2
講 演	本協会主催の講演会の内容。	20
新刊紹介	新刊の学術単行本などを紹介したもの。	2
会員の声	石油・天然ガス鉱業に関連した会員の意見。	2
参加報告	関連学会への参加報告など。	4

注：本委員会が認めた場合には、上記に規定されている最大ページ数を超過することができる。

# 石油技術協会誌投稿要領

平成 08 年 01 月 16 日	全面改定
平成 19 年 08 月 28 日	全面改定
平成 21 年 12 月 15 日	一部改定
平成 23 年 12 月 14 日	一部改定
平成 24 年 12 月 18 日	一部改定
平成 26 年 06 月 18 日	一部改定
平成 29 年 12 月 13 日	一部改定
令和 02 年 09 月 01 日	一部改定
令和 04 年 12 月 14 日	一部改定

## 1. 総 則

石油技術協会誌（以下、本協会誌という）への投稿に関しては、本投稿要領に従う。

## 2. 原稿の提出

### 2.1 投稿時の提出原稿

- (1) 本文等（表紙、英文要旨、キーワード、本文、図の説明文の一覧表）および図表（写真は図とする）。
- (2) 提出方法

投稿、受付、査読、原稿の再提出、審査結果の判定および最終原稿の提出はすべて本協会のホームページ (<https://www.japt.org/>) からオンライン投稿・査読システムによって行う。

投稿する際は、オンライン投稿・査読システムの指示に従って、投稿に必要な情報を登録するとともに、投稿原稿の電子ファイルをアップロードする。ファイルの容量の合計は 50 MB 以内とする。

### 2.2 投稿時の図

図は、査読上支障のないよう鮮明な画像とする。

### 2.3 再提出時の注意

原稿投稿後修正が生じた場合、または査読者の指示により再提出する原稿においては、例えば修正履歴を残すなど修正箇所がわかるよう明示して提出する。

### 2.4 受理後の提出原稿

本委員会から原稿受理の通知があった場合には、その指示に従い最終原稿本文等と図表を提出する。受理された原稿は原則として著者に返却しない。

#### (1) 最終原稿本文等

表紙、英文要旨、キーワード、本文、図の説明文の一覧表をデジタルデータで提出する。

#### (2) 掲載用図表

図表のデジタルデータの形式は PDF、Tif、GIF、JPG その他の一般的なものとし、原稿とは別ファイルとする（原稿本文中に図表を組み込まない）。投稿時の審査用図面ではなく、解像度劣化のない鮮明な原図、写真等を提出するよう注意すること。

#### (3) 電子メールまたは電子媒体にて提出する場合には、

使用ソフトウェア名およびそのバージョンを明記する。投稿原稿のアップロード前に、あらかじめウィルスチェックを行うものとする。

## 3. 原稿の長さ

### 3.1 最大ページ数

原稿の種別ごとの最大ページ数は、石油技術協会誌投稿規定の別表に従う。次項 3.2～3.3 を踏まえ、最大ページ数を勘案して原稿を作成する。

### 3.2 1 ページの文字数

1 ページには、和文では 2,600 字、英文では 5,800 字が掲載される。

### 3.3 表紙および図表に必要なページの目安

#### 3.3.1 表紙

表題（和文、英文）、著者名、英文要旨と英文キーワード（論文、報告、短報、総説、資料、解説および講演のみ）および脚注には、一般に 0.8～0.9 ページを要する。

#### 3.3.2 図表

各図表の大きさを、①片段（ページ片方の段にのみ掲載）、②両段（ページ両方の段に亘って掲載）、③全ページのいずれかで指定する（4.6 (6) を参照）。

## 4. 和文原稿の書き方

### 4.1 用紙

原稿はすべて A4 判縦置き横書きとし、パソコンによるものを標準とする。パソコンによる原稿は、カタカナは全角（2 バイト）、数字とアルファベットは半角（1 バイト）を使用し、10～12 ポイント、ダブルスペース相当の行間を空けて、また、上下左右 3 cm 程度の余白をもって印字する。図表を含みすべてのページに連続的なページ番号を記すこと。

### 4.2 原稿の表紙

原稿の第 1 ページ（表紙）に、以下に記す原稿の種別、表題、著者名などを順に記し、必要に応じて脚注にてその他情報を補足する。

- (1) 論文、報告、総説、資料などの原稿の種別（投稿

規定第2条原稿の投稿を参照)。

- (2) 和文表題  
表題は簡潔にかつ主題を明確にすることが望ましい。
- (3) 和文著者名
- (4) 原稿の受付日と受理日(英文)(原稿受理の通知を受けてから最終原稿に加筆する)。
- (5) 英文表題  
表題は簡潔にかつ主題を明確にすることが望ましい。
- (6) ローマ字著者名(省略せず完記する)。
- (7) 口頭もしくはポスター発表がしてある場合は、その年月日と発表した発表会の名称を和文および英文で脚注に記す。
- (8) 著者の所属機関名を和文および英文で脚注に記す。  
著者の現在の所属機関が原稿の研究を行った機関と異なる場合は、研究を行った際の所属機関を主とし、併せて現在の所属機関を記す。  
共著者の所属機関が異なる場合は著者と所属機関をアスタリスクで対応させること。  
著者の e-mail アドレスを脚注に記す。  
共著の場合はコレスポンディングオーサーを脚注記号で指定し、その e-mail アドレスを記す。

#### 4.3 英文要旨とキーワード

- (1) 論文、報告、短報、総説、資料、解説および講演には300語以内の英文要旨(Abstract)を添える。
- (2) 英文要旨の下に英語のキーワードを付ける。キーワードは3以上、12以下とし、著者が付け本委員会が補う。

#### 4.4 本文

- (1) 章・節および項の区分はポイントシステムとする。章・節には副題をつける。  
章番号は「1., 2., 3., ...」, 節番号は「1.1, 1.2, 1.3...」, 項番号は「1.1.1, 1.1.2, 1.1.3...」とする。  
(例) 1. 石油システムのご概念と評価法  
1.1 「石油システム」とは  
1.2 「石油システム」評価法
- (2) 新かな遣いおよび常用漢字の使用を原則とする。ただし、特殊な術語はその限りではない。
- (3) 一般的な用語を用い、俗語や特殊用語の使用は避ける。略語の使用は最小限にとどめ、使用する場合は初出箇所に正式名を書き、略語を括弧に入れる。
- (4) 外国の人名、地名などの固有名詞は、外国語で表記することを妨げないが、その際、日本語または英文を併記する。
- (5) 術語と物質名は、日本工業規格(JIS)に準拠するほか、文部省学術用語集および石油技術協会(以下、本協会という)が出版する「石油鉱業便覧」, 「石油地質・探鉱用語集」, 「油井・パイプライン用鋼管ハンドブック」, 「石油生産技術用語集」など

を参考にする。

- (6) 生物名の属以下の名称(学名)、変数名などはイタリック字体(または下線)を用いる。
- (7) 数量、序数を示す数字はアラビア数字とし、漢字と結合して名称や概数を表す場合は漢数字を使用する(例:三角州, 四隅)。
- (8) 単位は原則として国際単位系(SI)を用いる。やむを得ず従来単位を用いる場合は、各数量ひとつの単位に限定し、脚注または末尾にSIとの換算係数を一括して付記する。また、数量単位記号には国際的に慣用されているものを用いる。
- (9) 量記号は原則としてJISZ8202(量記号および単位記号)、数学記号はJISZ8201(数学記号)、化学記号は万国化学記号による。また、質量数は元素記号の左肩に付ける。
- (10) 本文または数式に用いる記号は、原則として本協会編「石油鉱業便覧」およびSPEの「SPE Symbols Standard」を参照する。記号の説明は、必要に応じて、本文中か末尾の引用文献の前に一括して記載する。記号とその説明文の間は「:」を用いる。
- (11) 数式は行を替えて記し、括弧内に通し番号を付ける。文中で使用する場合には特殊な記号を用いず、「a/b」, “exp (a/b)” などの記法を用いること。また、あいまいな表現を避け(特に分子、分母の区別)、他の記号と混同しないよう注意すること。本文中で引用する場合は、式(1)のようにする。  
Appendixで数式や方程式は、式1, 式2...等で記す。

#### 4.5 引用文献

私信、未公表・未刊行物、準備中・投稿中あるいは審査中の原稿などの外部に公表されていないもの、およびホームページのURLは、原則として「引用文献」として認めない。

- (1) 本文中で引用文献を示す場合は以下の様式に従う。  
著者が1人の場合: 著者(1991)または(著者, 1991)  
著者が2人の場合: 著者1・著者2(1999)または(著者1・著者2, 1999)、欧文の場合は Author1 and Author2 (1999) または (Author1 and Author2, 1999) 著者が3人以上の場合: 著者ほか(1991) または (著者ほか, 1991)、欧文の場合は Author1 *et al.* (1991) または (Author1 *et al.*, 1991)。  
著者が7名を超える文献は、最初の6名を列挙し、省略記号(日本語部分は……, 英語部分は…)を付したあと、最後尾の著者名を記す。  
例) 加瀬善洋・仁科健二・川上源太郎・林圭一・清水康博・廣瀬亘……石丸聡 [Kase, Y., Nishina, K., Kawakami, G., Hayashi, K., Takashimizu, Y., Hirose, W.,...Ishimaru, S., 2016, Tsunami deposits recognized in Okushiri Island, southwestern Hokkaido, Japan. *J. Geol. Soc. Japan*, 122, 587-602.]



ただし、同一著者による同一出版年の文献を2件以上引用する場合には、出版年の後に a, b, c, … を付して区別する。

- (2) 引用文献リストの書き方は以下の例に従うことを原則とする。

引用文献は本文末に著者名のアルファベット順に一括する。同一著者の文献が2件以上あるときは出版年順に、さらに同一出版年に2件以上あるときは出版年の後に a, b, c, … を付して並べる。書体は著者が指定し、巻数を示す数字には太字体（校正記号で示す場合は波形下線）を、欧文の雑誌名と書名にはイタリック字体（校正記号で示す場合は1本下線）を用いる。

(a) 雑誌論文

著者名, 出版年, 論文名, 誌名, 巻, 号, ページ, DOI, の順とする。

(例) 平井明夫・佐藤時幸・高島 司, 1990: 八橋油田における油の根源岩と生成・移動・集積。石技誌, 55(1), 37–47, doi: 10.3720/japt.55.37.

(例) Takahashi, M. and Hayashi, M., 1991b: Zircon crystal morphology of the Miocene tuffs in the Kamogawa area, Boso Peninsula, central Japan. *J. Japan Assoc. Petrol Technol.*, 56(6), 477–481, doi: 10.3720/japt.56.477.

(b) 予稿集論文・会議録論文

著者名, 出版年, 論文名, 会議名, 開催地, 開催日, 論文番号またはページ, DOI, の順とする。

(例) Naganawa, S., Kudo, H. and Matsubuchi, H., 2016: Simulation Study on Influences of Wellbore Tortuosity on Hole Cleaning in Extended-Reach Drilling. Proc. Abu Dhabi International Petroleum Exhibition and Conference (ADIPEC), Abu Dhabi, UAE, November 7–10, SPE-183409-MS, doi: 10.2118/183409-MS.

(c) 単行本

著者名, 出版年, 書名, ページ, 出版社, の順とする。

(例) 日本アイソトープ協会編, 1970: 新版アイソトープ便覧, 丸善。

(例) Tissot, B. P. and Welte, D. H., 1978: *Petroleum Formation and Occurrence*, 500–508, Springer-Verlag.

(d) 単行本や編著本の一部

著者名, 出版年, 表題, 書名, 編著名, ページ, 出版社, の順とする。

(例) 渡辺武男, 1961: 鉱床。地球の構成, 坪井忠二編, 269–290, 岩波書店。

(例) Magoon, L. B. and Dow, W. G., 1994: The petroleum system. *In The Petroleum System From*

*Source to Trap*, Magoon, L. B. and Dow, W.G. eds., 3–24, American Association of Petroleum Geologists.

(e) 電子文献, ウェブサイト

著者名, 掲載年, 表題, URL, アクセス日, の順とする。

(例) 経済産業省, 2015: 長期エネルギー需給見通し. [http://www.meti.go.jp/press/2015/07/20150716004/20150716004\\_2.pdf](http://www.meti.go.jp/press/2015/07/20150716004/20150716004_2.pdf) (accessed 2016/05/13).

(例) 経済産業省, 2017: 第2回メタンハイドレート海洋産出試験を終了しました. <http://www.meti.go.jp/press/2017/06/20170629004/20170629004.html> (accessed 2017/07/03).

#### 4.6 図表

投稿原稿中の図, 写真, 表などを次の2種類に分け, 全てに通し番号を付け, 標記は英語とする。但し, 論文, 報告, 短報以外の種別の投稿では日本語を用いてよい。

- a. Fig (図): 本文中に挿入する図および写真などの画像
- b. Table (表): 本文中に挿入する記号・文字・罫線からなるもの

- (1) 図表には番号と表題, 必要に応じて説明文(キャプション)を付ける。
- (2) 説明文がある場合, 本文とは別に図番と表題および説明文の一覧表を作成し, 原稿に添付する。説明文は英語で記述する。但し, 論文, 報告, 短報以外の種別の投稿では日本語を用いてもよい。英語の説明文に加えて, 必要に応じて日本語の説明文を付加してもよい。英語以外の外国語の使用は, 固有名詞以外は認めない。図中の地名などの固有名詞には, 必要に応じて日本語を付す。
- (3) 文献の図表を引用する場合は, 当該表題の後にその著者名と西暦出版年を記す。
- (4) 図表は別紙あるいは別ファイルにまとめて作成し, 本文原稿中にそれらの挿入位置と大きさを指定する。
- (5) 図表の画像データは, そのまま拡大または縮小して掲載できるように解像度の高いものとする。原稿受理の通知があった場合には, 可能な限りオリジナルの画像データを提出する。
- (6) 顕微鏡写真にはスケールバーまたは凡例で大きさを示す。
- (7) 図表の大きさは掲載時の1ページ分を最大限とする。各図表の大きさの指定については, 3.3.2による。ページ数の制約などで必要な場合, 本委員会は大きさを変更できる。

#### 4.7 口 絵

- (1) 全体としての題目を付ける。
- (2) 著者, 撮影者を明示する。
- (3) 原則としてカラー写真 2 ~ 6 枚程度で, 相互関係を明確にする。
- (4) それぞれに数行の説明文を付ける。

#### 5. 英文原稿の書き方

英文原稿の書き方については英文投稿要領 “Guide for Author” を参照のこと。なお, 英文原稿の場合は,

和文表題・著者氏名とともに, 1,200 字以内の和文要旨を添える。

#### 付 則

本要領は石油技術協会誌編集委員会運営規定第 8 条に従って定めるものである。

本要領の改廃は本委員会の発議により, 理事会の議決によって行う。

本要領は令和 4 年 12 月 14 日 (第 87 期第 5 回理事会承認)。

#### SI 単位換算係数 (SPE 表示形式)

inch	×	2.54*	E - 02	= m
ft	×	3.048*	E - 01	= m
ft <sup>3</sup>	×	2.831685	E - 02	= m <sup>3</sup>
bbl	×	1.589874	E - 01	= m <sup>3</sup>
kgf	×	9.80665*	E + 00	= N
kgf / cm <sup>2</sup>	×	9.80665*	E + 04	= Pa
atm	×	1.01325*	E + 05	= Pa
lbm	×	4.5359237*	E - 01	= kg
lbf	×	4.448222	E + 00	= N
psi	×	6.894757	E + 03	= Pa
darcy	×	9.86923	E - 13	= m <sup>2</sup>
			E - 01	= μm <sup>2</sup>
md	×	9.86923	E - 16	= m <sup>2</sup>
			E - 04	= μm <sup>2</sup>
cP	×	1.0*	E - 03	= Pa · s
cSt	×	1.0*	E - 06	= m <sup>2</sup> / s
cal	×	4.186	E + 00	= J
Btu	×	1.055056	E + 03	= J
Å	×	1.0*	E - 10	= m
HP(メトリック)	×	7.35499	E - 01	= kW
hp(英・米)	×	7.46043	E - 01	= kW
US gallon	×	3.785412	E - 03	= m <sup>3</sup>
US short ton	×	9.071847	E + 02	= kg
rpm				= 1 / min
(°F - 32) / 1.8				= °C
mile	×	1.609344*	E + 00	= km
acre	×	4.046873	E + 03	= m <sup>2</sup>
knot	×	5.144444	E - 01	= m / s
海里	×	1.852	E + 03	= m
141.5 / (131.5 + °API)				= g / cm <sup>3</sup>
mm Hg	×	1.33322	E + 02	= Pa
mm H <sub>2</sub> O	×	9.80665	E + 00	= Pa
ft H <sub>2</sub> O	×	2.98898	E + 03	= Pa

\*は正確な値